

平成 30 年度「京都市交通バリアフリー推進会議」 摘録

日 時：平成 31 年 1 月 29 日（火）

午後 2 時から 4 時まで

場 所：下京区役所第 1・2・3 会議室（4 階）

1 開会：京都市都市計画局交通政策担当局長 鈴木 隆志から挨拶

2 報告事項

(1) 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について

《会議資料》 資料 1 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰パンフレット

《参考資料》 「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想（概要版）

「心のバリアフリーハンドブック」

「分かりやすく伝えるため」の手引き

《質疑応答》

特に意見なし

3 議事

(1) 「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想の進ちょく状況について

《会議資料》 資料 2 「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想の
進ちょく状況について

資料 3 平成 30 年度のバリアフリーに関する取組について

《質疑応答》 ●：委員等からの御意見 △：事務局等からの回答

● 資料 3 のスライド 28 にある情報提供についての京都市の取組で「分かりやすく伝えるための手引き」、「コミュニケーション支援ボード」を作成したとありますが、どれくらいの方々が使われているのでしょうか。

△ 現在のところ、利用実績を調査したものはありませんが、今年度の市民対応研修の中で、「分かりやすく伝える」ことをテーマとした研修の実施を働き掛けています。研修で出された、伝わりにくかったことや少しの工夫で伝わった例等についてフィードバックを受ける予定になっています。

● 難聴者は補聴器をつけていますが、ヒアリンググループを使うと、非常に聞き取りやすくなります。バリアフリーの一環として駅のホームなどに設置することはできないでしょうか。

高齢になれば 4 人に 1 人は難聴者となります。こういった取組があれば社会参加もしやすくなります。今後、2020 年に東京オリンピック・パラリンピック、2025 年に大阪万博がありますので、来日する世界中の難聴の方々も安心すると思います。

△ 京都市では会議の場で活用しています。駅などの施設における設置状況は把握できていませんが、交通事業者の活用状況はいかがでしょうか。

△ ヒアリンググループについては、地下鉄京都駅の駅務室でお客様対応ができるように設置しています。駅全体となるとなかなか難しいですが、いただいた御意見

については今後の取組の参考にしたいと考えます。

- これまでバリアフリーの取組として、多機能トイレを整備してきていると思いますが、どの駅にどのような設備を備えた多機能トイレがあるのか、どのように分布しているのか、一覽でみられるようなものはないのでしょうか。行政施設も含めて市内の分布状況が一目でわかるものがあればありがたいです。

△ 京都市がバリアフリーに関する詳細な情報をまとめて発信するところまではできていない状況です。他都市の事例も踏まえて検討していきたいと思います。

- 私には障がいを持った小学生の子どもがいますが、大きくなってきたのでベビーベッドではおむつ替えができない状況です。小学生以上の肢体不自由の方はベッドが無いとトイレで用が足せません。

東京の方では、東京オリンピック・パラリンピックに向け、バリアフリー化が注目されていますが、ホテルに整備された多機能トイレが、障害の種別によって使用できないことがニュースになっていました。

誰でも使えるようなトイレにさせていただき、こういった設備がある多機能トイレなのか情報提供いただければ非常に助かります。

(2) バリアフリー法の改正の概要等について

《会議資料》 資料4 バリアフリー法の改正の概要等について

《参考資料》 旅客施設の建築、大規模改修等に伴う京都市みやユニバーサルデザイン審議会利用しやすい施設づくり部会への意見聴取について

《質疑応答》 ●：委員等からの御意見 △：事務局等からの回答

- 資料4 スライド13の情報提供についてですが、駅の工事などの情報を、駅に張り紙をしてお知らせいただくことがあります。事前に教えていただければ我々の団体の機関誌を使ってお知らせすることができます。京都市を通じて御連絡いただくことでも構いませんので鉄道事業者の方でこういったことを御検討いただけないでしょうか。

△ 鉄道事業者とも相談しながら、今後の対応を検討したいと思います。

- 資料4 スライド13の情報提供についてですが、現状としては文字による情報提供は事業者ごとにバラバラとなっており、充実しているとは言えない状況です。

△ さまざまな障がいをお持ちの方がいる中で、十分な情報発信ができていない点があることも認識しています。情報発信は非常に重要ですので、今後もより一層努めていきたいと考えています。

- 資料4 スライド13の情報提供についてですが、地下鉄でエレベーターの点検等で使用できず、駅を利用できないことがありました。事前に分かれば良いですが、実際に駅までいかないとわからない場合が多いので、点検中のエレベーターのところにインターフォンを設けてその場で駅員に介助をお願いできるような仕組みは作れないでしょうか。

また、駅の施設に授乳室はできないのでしょうか。

△ エレベーターの点検については、事前に駅施設内やホームページ等でお知らせしています。点検中の場合、その場にいるガードマン等にお声掛けいただければ何らかの対応ができると思います。

授乳室の件については、駅の中の限られたスペースではあり難しいと考えていますが、今後検討すべき課題として承ります。

● 子ども用の車椅子でバギータイプのものがありますが、ベビーカーと間違えられ、エレベーター内で畳むよう他の利用者から言われたことがあります。

介助を断られたりすることがあるなど、子ども用の車椅子であることがあまり知られていないので、広く周知していただければと思います。

また、そもそもベビーカーであっても温かく見守っていただければと思います。

● このような課題を社会が広く認知していくためには広報等で周知していくことが重要だと思います。その点を十分留意して取組を進めていただければと思います。

△ 検討してきたいと思います。

● 資料2のP5にバリアフリー化の進捗状況がありますが、基本構想を策定していないものの既にバリアフリー化されている駅もあると思います。全ての駅のバリアフリー化状況が分かるようにまとめることができないのでしょうか。

△ 各鉄道事業者から提供いただいた最新のバリアフリーの情報を正確に発信することが重要だと思います。鉄道事業者とも協議しながら検討していききたいと思います。

● ろうあ者にとっては、見てわかる情報が一番重要だと思います。電車が止まったり、遅れたとしてもその状況が分からないことがあり、スマートフォンで調べることがありますが、特に高齢者はそういったことができないと思います。このため地下鉄の駅には、発車時刻、遅延状況等が分かる電光掲示板があるとありがたいです。

先ほど他の委員の方もおっしゃられたように、資料では今までの成果が分かりませんが、市全体の情報を掴むことができません。

昨年、地下鉄丸太町駅のエレベーターが故障し、1箇月間ほど使えない状況でした。階段しかない駅となっていますので、前もって各障害者団体に隣接する烏丸御池駅や今出川駅を利用するよう連絡いただければと思いました。

● 我々の団体は、高齢者ばかりでエスカレーターにも乗れない方もいますが、交通事業者の方々にエレベーターなどを整備していただいているので助かっています。今日の御意見をお聞きしていると、障害のある方の立場のことを良く分かっているようで、分かっていないということをつくづくと感じさせられました。

● 私たちの声がこのように形になってきていることに交通事業者をはじめ、皆さまに非常に感謝しています。我々は車椅子などの重度障がい者を支援していますが、今後もバリアフリー化の取組に対して少しでも手助けができればと思っています。西大路駅のバリアフリー化もようやく着手されましたので、皆さんの知恵

やお力でできたことを感謝しています。

- 事業が進んでいるものの、残念なことにほんの 1 cm, 2 cm の段差がまちの中にはたくさん残っています。歩道を車椅子が水平に通れて初めてバリアフリーになります。設計の段階からバリアフリー化をしっかりと考えて欲しいと思います。時間がかかってもそういった点も考慮して事業を進めていただきたいと思います。
- 心のバリアフリーハンドブックをつくる際に参加させていただき、この度表彰されたことはうれしく思います。これをできる限り小学校や中学校などに幅広く配布していただけると、親御さんも御覧になると思います。
- トイレのユニバーサルベッドの話は学校でも出ています。ヘルパーが同性ではなく異性の場合もあるので、男女兼用の多機能トイレがあると助かります。
- ヘルプカードの存在や知っていただく機会が必要ではないかと思しますので市にも御協力いただけると助かります。
- これまでユニバーサルベッドのことを言い続けていますが、今後ともユニバーサルベッドの設置や異性のヘルパーでも利用できるような環境を整えていただければと思います。
- エレベーターの点検の話が先ほどありましたが、私もそんな状況になり、駅員さんに言ったところ、キャタピラ昇降機を手配していただき、階段を上がることができました。こういった対応をしていただけることも分かりませんでしたので、広く周知していただければと思います。
- 先日、京都駅のバス乗降場をリフトバスで利用させていただきました。障害の関係で乗降に時間がかかりますが、京都市へ相談したところ、利用料金を御配慮いただけたので非常に感謝しております。
- 心のバリアフリーの取組として、よく気が付くよう注意して周りを見ていただければと考えます。
- 京都市の人口が 147 万人でそのうち外国籍の方が 4 万 5 千人、人口割合で 3.2% となっており、最近では入国管理法が改正され、これからますます外国籍の方の人口が増えると思われます。新たな外国籍の方が増える中で多言語表示は重要となりますが、現時点では統一的なルールが無い状況です。どのように表示したら伝わりやすいのか皆さんで考えていけたらと思います。外国籍の方も健常者ばかりではありませんので、多機能トイレや乗換えの際の案内なども配慮いただけたらと思います。
- 京都市内の地下鉄ではホームドアが設置されていますが、民間鉄道事業者では設置が進んでいない状況です。転落防止のためのホームドアがあれば安全性は格段に向上します。お金のかかる話で恐縮ですが、設置を進めていただければと思います。
- 今後、東京オリンピック・パラリンピックや大阪万博、文化庁の京都への移転でますます国際化が進む中で、言語も含めバリアフリー化は進めていただきたいと思います。

長期的に見て、国際的な視点からSDGs委員会を設け、バリアフリーも含めて日頃からこの目標に沿った意見を吸い上げるような場を作っていただければと思います。

- 資料2のP6でバリアフリー化の進捗状況が報告されていますが、ある一定の水準に達したらいいのではなく、質も高めていく必要があると思います。バリアフリー化は1回やれば終わりではなく、継続的に取り組んでいくべきものであるということが本日の全体の御意見ではないかと思いました。

宿泊税などをバリアフリー予算として活用するなど、継続的に予算を確保していくことが重要ではないかと思います。

- 市内全体のバリアフリーの情報を把握し、可視化することが今後の課題としました。バリアフリー化が進んできたことによって、いろいろな立場の方の活躍の場が広がってきていると思います。今後はそれらを評価しながら新たなニーズについても分析していただければと思います。

- 皆さんの御尽力により、バリアフリー化が着実に成果となっている中で新たな課題も出ているというように感じました。物理的にバリアフリー化された施設をいかに活用していくか、各社のバリアフリーの情報をいかに統合していくか、真に必要な方が情報を容易に入手できるかといったことが今後の課題としました。

東京メトロやロンドン交通局では、トイレの場所などをオープンデータ化し、民間が独自のアプリをつくるなど、様々な人を巻き込みながら推進している取組があります。柔軟に幅広く意見を伺いながらバリアフリー化を進めて行くことが重要と考えます。

バス事業者はバス運転手の人材不足の中で、個人的に心のバリアフリーの意識が薄くなっているように感じます。いかに推進していくか取り巻く環境を踏まえながら考えていく必要があると思います。

- 限られた時間の中で御議論いただき、ありがとうございました。様々なご指摘がありましたが、まだ残された課題を1つずつ解決していくことが必要だと思いました。より一層きめ細かな質の向上を目指して推進していただければと思います。長時間にわたり熱心な御議論ありがとうございました。

4 閉会

以上